

平成30年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立谷戸小学校

●全国学力学習状況調査（小6・中3）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。	28.0	「読むこと」に関する平均正答率が、全国平均及び都平均を上回っている。読み方の習得を促し、叙述に即して読む能力を身に付けさせた指導に効果があったと考える。	「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」に関する平均正答率が、全国平均を下回っている。話し合いの内容を踏まえて自分の考えを伝え合ったり、文章を読みながら書き方の工夫を捉えたり、言語に関する正しい知識を学んで記述した文章を推敲したりする学習を重視する必要があると考える。
	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える。	68.0		
	文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く。	34.7		
算数・数学	単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している。	41.3	A問題、B問題共に全国平均を上回る結果となった。自分の考えを説明したり、友達の考えを解釈したりすることを重視した学習に効果があったと考える。	除法の式や商の意味に関する理解が不十分である。立式の根拠を図等と対応させて示したり、演算により求めた答えの意味や数値の妥当性を説明したりする学習を繰り返していく必要がある。また、公式は記憶していても、本質的な概念を理解していない傾向も見えてきた。形式的な処理ではなく、問題発見・解決過程を重視して指導に当たりたい。
	小数の除法の意味について理解している。	32.0		
	直径の長さと同円の長さの関係について理解している。	53.3		
理科	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩に溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。	30.7	「知識」に関する問題の正答率が全国平均に達した。実験やICTを積極的に活用し、科学的な思考過程を板書等で構造的に示した指導に効果があったと考える。	正答率が全国平均及び都平均を下回った。特に、適切に実験を構想できるかをみる問題に対する正答率が低い。実験結果から結論を導くだけでなく、仮説を立て、それを確かめるためにどのような実験をすればよいかを考える過程を重視して指導に当たりたい。また、理解が難しい概念については、図等を用いて具体的に捉えられるようにする工夫が必要だと考える。
	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。	46.7		
	電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。	41.3		

●児童・生徒の学力向上を図るための調査（小5・中2）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	書きたいことが分かりやすく伝わるように、よりよい表現に書き直すことができる。	50.9	「読むこと」に関する正答率が東京都の平均を上回っている。また、他の人の発表の聞き方や、相手や目的に応じて工夫した書き方の正答率が高い。これは自分の考えをもち、対話することによる学習の成果と考えられる。	「言語」に関する正答率が都平均より下回っている。「読むこと」を通して、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を捉えさせるようにする。
	文の中の主語と述語の関係に注意して読むことができる。	42.1		
	文の中の修飾語と被修飾語の関係に注意して読むことができる。	26.3		
社会	調べたことをもとにして、消防署の取り組みの目的について考えることができる。	45.6	学習をふり返り、さらに調べたいことを答える問題と資料から疑問や調べてみたいことを見出す問題の正答率が共に91.2%と高い。身の回りの問題に気づき、調べ学習を多く取り入れた成果と考えられる。	東京都全体から見た本市の位置を理解していなかった。日ごろから地図帳や資料集を用いて学習を進める必要がある。また、「消防署の取り組み」や「Cさんの訪問先」については問題文や資料を正しく読み取る力をつけていく必要がある。
	自分たちが通う小学校がある区市町村の位置について分かる。	40.4		
	Cさんの訪問先から考えられる特徴や共通点を見出すことができる。	49.1		
算数・数学	分かっていることを2次元表に表すことができる。	24.6	A問題の内容では、東京都の正答率を上回った。その中の「思考・判断・表現」は正答率が前年よりさらに上回った。少人数クラスでじっくり考える機会を増やしていることや、自分の考えを表現したり、友達と交流して問題解決に取り組んだりしたことが成果として現れていると考えられる。	最も正答率が低かったのは「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」をみる問題である。今後は問題を図や数直線等で表したり、話し合いを中心とした学習の中で解決方法を言葉で説明し合ったりすることをさらに意識して行う必要がある。
	2つの資料から、2年後のカレンダーについて考えることができる。	14		
	2018年7月のカレンダーと同年の資料をもとに2020年7月24日の曜日を求めることができる。	12.3		
理科	星座早見の使い方が分かる。	40.4	人体や電気の内容など、身近な事象についての実験で理解したものの正答率が高かった。興味関心を高め、自ら実験に取り組もうという児童の態度が、正答率の高さにつながったと考えられる。	ゴムカーが動いた結果から正しい回答を求める問題の正答率が最も低かった。科学的な思考・表現はある程度定着しているため、今後は、理科の課題を読解の力を高めることで、内容を理解する力を定着させていく必要がある。
	ゴムの力を利用したゴムカーが動く様子から結果を予想することができる。	35.1		
	回路のつながり方の違いをもとに考えることができる。	50.9		
英語 ※中学校のみ				